

芸術 みどころ コラム

市民ギャラリー特別展

『象書』を極める

手島右卿、山崎大抱、戸田提山

手島右卿は、西川寧、日比野五鳳と共に昭和の三筆と呼ばれ、現代書道を語る上で重要な書家です。そして、その高弟の山崎大抱、戸田提山それぞれが切り開いた現代書の独自の書風の世界を紹介いたします。

手島右卿（明34年生）は、中国や日本の古典を徹底的に追求し、あらゆる臨書・書法を会得し、長きに亘る試行錯誤の末「象書」（文字の内容に相応しい形の書を創作すること）という造形性豊かな新しい様式美を確立しました。特に、代表作の『崩壊』は、昭和32年の第4回サンパウロビエンナーレに日本美術の代表として出品され、世界でも高い評価を得ました。手島は「終戦間近の空襲のさ中、爆弾が落ちるのを見て、もののくすれてゆく、あのすさまじい迫力を書によって表現できないかと考えた。すさまじい破壊力、無残にくすれ落ちるコンクリートの建物、言葉では言い表わすことのできない凄絶さに、くすれゆくものの美を感じたのだ」と語っています。以来十数年間イメージをあたため、構想を重ね、種々の試みの末ある時ふとできあがった作品だといえます。この代表的な作品もご覧いただけます。

山崎大抱は、手島の第一の高弟で「象書」を引き継ぎながら、なお独自の書風を追求し、海外でも活躍し現代書を世界の芸術へと切り拓きました。代表作の『海』には古郷四十万の海の姿がどしどしと表現されています。

安城市出身の戸田提山も手島右卿を師と仰ぎ「象書」を極めてきた一人です。平成元年には『象書』で第21回日展の内閣総理大臣賞を受賞します。市民ギャラリーでは、没後の

平成17年には「戸田提山展『書の造形美』」そして平成29年には「戸田提山生誕百年記念展」を実施しました。



《崩壊》手島右卿 作

3人の書家は子弟の関係を保ち、互いに「象書」を極めるべく独自の世界を展開し、現代書を築き上げ、今も多くの人々に不変の感動を与えてくれます。

6月6日(土)～7月5日(日)

月曜休館

市民ギャラリー全展示室

観覧料300円、中学生以下無料

協力：（財）光ミュージアム

四十万市教育委員会

（公財）独立書人団

（一財）毎日書道会

安祥文化のさと地域運営共同体

問い合わせ

市民ギャラリー 77-6853

文化の花園にようこそ

文協祭に遊びにきませんか！

入場無料

文化協会では、毎年、会員グループや個人会員の作品展示や芸能まつりを行い日頃の成果を発表しています。

●美術展 会場：市民ギャラリー

*日本画、洋画、水墨画、書、写真、工芸等の展示を行います。
(前期) 5月12日(火)～17日(日) 午前9時～午後5時
(後期) 5月19日(火)～24日(日) 午前9時～午後5時
(いずれも初日は午後1時から 最終日は午後4時まで)

●芸能まつり 会場：市民会館 サルビアホール

*芸能団体による民謡、箏曲、詩吟、フラダンス、舞踊などの演技をお楽しみください。
5月17日(日) 午前10時～午後5時40分

●文芸・技芸・趣味展 会場：文化センター・市民会館ほか

*いけばな、お茶、アートフラワー、ちぎり絵、俳句・短歌等の展示。体験コーナーあり
5月15日(金)～17日(日)

●文化協会では、団体・個人の会員を募集しています。お気軽にご相談ください。

問い合わせ

安城文化協会事務局 74-6066
市民ギャラリー 77-6853

文化グループ紹介

美術(洋画) 八彩会

現在、公民館の講座や地域での絵画教室の修了生を中心に結成されたグループが市内に7団体あります。平成10年に自主活動への発展と各教室の交流を活性化させるため、輝く「7つの色彩+1」をコンセプトに「八彩会」が結成されました。

活動内容として、各教室のレベルアップを目指し、毎年八彩会展を開催し、本年度で22回目を迎えます。また、文協祭への全員参加、八千代病院での展示、八彩会を構成する各サークルでは、随時展示会を開催しています。このような活動が認められ昨年には、会として「文化協会賞」を受賞しました。

八彩会を構成する市内の各グループでは、仲間を募集しています。定年後の余暇で私たちと一緒に絵を画いてみませんか。身近なところに仲間がいます。会の活動や入会について知りたい方は、気楽にご連絡ください。

(連絡先) 服部八千代 99-1354
間瀬 勝 99-3037



文化財ジャーナル vol.53



歴史の散歩道
根崎町

れんが 煉瓦がなくっちゃはじまらない！ ～安城・半田でみつけた煉瓦歴史モノガタリ～

歴史的な煉瓦建築と言えば、東京駅(大正3年開業、東京都)や横浜赤レンガ倉庫(明治44年・大正2年、神奈川県)などが思い浮かぶと思います。これらは耐久性の高い煉瓦により往時の姿を留め、日本の近代化を象徴する建造物として現在も残されています。今回は、その煉瓦をつくる人々に注目しました。

写真1 半田赤レンガ建物(旧カプトビール工場、半田市 写真提供:半田赤レンガ建物)

写真2 明治航空基地 弾薬庫 南側(東端町)



写真3 明治40年頃の岡田煉瓦製造所(写真提供:株式会社岡田煉瓦製造所)



写真4 丁窯
ほかに甲・乙と呼ばれたメインの焼成窯がありましたが、現存していません。

煉瓦建築の文化財

安城市周辺にある煉瓦建築の文化財といえ、半田市にある赤レンガ建物でしょう。明治31年(1898)に竣工した旧カプトビール工場は、木骨煉瓦造の大規模な煉瓦建造物です(写真1)。名古屋市の旧日本陶器製土工場(現ノリタケカンパニーリミテド/ノリタケの森)も、煉瓦建築による重厚な建造物です。

安城で煉瓦をつくる

これらの建造物に煉瓦を供給したメーカーが安城市にあります。株式会社岡田煉瓦製造所(根崎町)です。良質な粘土を採掘できる根崎の地場産業として明治30年(1897)に発足した根崎煉瓦合資会社を前身に、明治31年に岡田煉瓦製造所として創業されました。以来、今日に至るまで、全国各地に煉瓦を供給し続けています。

実は、安城市にも、煉瓦建築の文化財があります。東端町にある、明治航空基地の弾薬庫です(写真2)。南北に2棟あり、煉瓦造の壁が現在も残されています。これらも岡田煉瓦製造所で生産された煉瓦でつくられています。

約90年前の煉瓦焼成窯

朝鮮川の前、岡田煉瓦製造所の工場敷地内に、煉瓦造の窯があります。両面焚倒焰式角窯で、「丁窯」と呼ばれました。昭和6年(1931)に完成し、以来昭和40年(1965)頃まで稼働しました。石炭を用いて良質な煉瓦を焼成し、その煉瓦は全国へ出荷されました。小型であるため、特に少量の受注や耐火煉瓦など特殊製品を手がけていたようです。現在はトンネル窯に役目を譲り、工場の片隅で静かに佇んでいます。近代の煉瓦生産および建築を支えた、貴重な産業遺産です。

安城でつくられた煉瓦に会いに行く

現在、半田赤レンガ建物を訪れると、旧カプトビール工場の歴史とともに、岡田煉瓦製造所の煉瓦や煉瓦生産に関わった資料が展示されています。歴史にふれ、安城の地場産業の力強さを再発見する良い機会になるかもしれません。

問い合わせ

文化振興課(埋蔵文化財センター内)
77-4477

【岡田煉瓦製造所に行ってみた】



写真5 岡田煉瓦製造所で働く皆さん

現在、純粋な煉瓦メーカーは全国に8社しかなく、そのなかで最も歴史ある煉瓦メーカーが、この岡田煉瓦製造所です。現在は技術が進歩し、長さ60mのトンネル窯で一度に最大約2万個の煉瓦を焼くことができます。粘土の成分や焼成方法・温度などに変化をつけて、生み出せる煉瓦の色はなんと14色！煉瓦といえば赤色のイメージがありますが、細かな色分けが可能とのこと、都市景観や店舗など、様々なシーンへの煉瓦供給を請け負っています。アンフォーレにも、岡田煉瓦製造所の煉瓦が使われています。また、軍艦島(長崎県)など国史跡や重要文化財の補修用煉瓦も生産しており、文化財とも関わりがあります。創業から受け継がれ、進歩してきた技術とものづくりの精神で活躍する人々が、そこにいました。